2026年3月31日発行

Aichi University of Education

教職の魅力共創

愛知教育大学　未来共創プラン

愛知教育大学 NEWS Vol. 7

愛知教育大学未来共創プラン 戦略3「教職の魅力共創プロジェクト」では、よりよい教育の未来につながる教職の魅力を共に創り出し、発信することを目標としています。
今回は、3名の現職の先生方に日々の仕事で大事にしていることや高校生や大学生に向けたメッセージ等を語っていただきました。

教職の魅力インタビュー

インタビュー動画

山田 なつ湖 先生
西尾市立吉良中学校 教諭
（教職大学院 教科指導重点コース
言語・社会科学系 国語 在学中）
教職4年目（収録時）

未来へ踏み出す力をそっと後押しする

Q 教師を目指したのはいつ頃、どのような理由からですか？

A 私が教師をめざしたのは中学生の頃です。思春期の私は、落ち込んだり悩んだりすることも多く、日々いろいろな思いを抱えていました。そんなときに支えとなってくださったのが学校の先生方でした。どんなに忙しい中でも、生徒一人ひとりに寄り添い、真剣に話を聞いてくださる姿に何度も救われました。先生たちの「生徒第一」の思いにふれ、私も教師として子どもたちを支えたいと思いました。

これからも教師として、子どもたちの気持ちに寄り添い、未来へ踏み出す力をそっと後押しできるようになりたいです。

Q 教育活動の中で力を入れて取り組んでいることは何ですか？

A 私は、地域の魅力を生かした教材づくりに力を入れています。西尾市ゆかりの詩人・茨木のり子さんの作品を題材にした授業では、8編の詩を全体で読み、さらに気になった詩を各自で選んで読みを深める学びを行いました。仲間との話し合いを通して言葉の意味や作者の思いを丁寧に考えるうちに、作品同士のつながりにも気づく姿が見られ、主体的な学びを広げることができました。単元の最後には、のり子さんの詩へのオマージュ創作作品をつくり、地域の方々の前で朗読する機会も得ることができました。さらに、公共施設で開催されたのり子さんの企画展にも飾っていただくことができました。

この取り組みは新聞にも掲載され、学校の学びが地域へ広がるよいきっかけとなりました。地元に縁のある題材を扱うことで、生徒が自分の住むまちに親しみや誇りを感じられる学びになったと実感しています。

教職の魅力インタビュー

インタビュー動画

榊原 大貴 先生
阿久比町立英比小学校 教諭
（教職大学院 教科指導重点コース
言語・社会科学系 社会 在学中）
教職13年目（収録時）

仲間とチームで困難を乗り越える

Q 教師になってみて思い描いていたこととは違ったことや思ってもみなかった魅力はありますか？

A 教師になった当初は、「子どもたちにさまざまなことを教えたい」と考えていました。しかし、実際に教壇に立ってみると、むしろ子どもたちから教わることの方が多いと感じています。それこそが、当初思い描いていた世界との違いであり、この仕事の大きな魅力でもあります。

子どもたちの考え方は本当に素晴らしく、日々「なるほど」「たしかに」「面白い」と思わされることの連続です。子どもたちから教えてもらいながら授業をすることで、私も子どもたちも楽しく授業に参加することができると思っています。そして、子どもたちとの関わりを通して、さまざまな価値観に触れ、自分自身も多くを学び、共に成長していると実感できることが何よりの喜びです。

Q 教師を続ける中で直面する困難をどのように乗り越えてきましたか？

A たくさんの困難に直面しましたが、困ったことがあればすぐに助けを求め、相談し、周りの方々に支えていただきながら困難を乗り越えてきました。その際に意識していることは、「わかりません」「助けてください」「相談に乗ってください」と素直に伝えることです。自分だけで抱え込むのではなく、「仲間とチームで困難を乗り越えること」を大切にしています。そのため、周りの方々に支えていただいている分、自分も誰かが困っているときにはすぐに行動に移し、力になれるよう努めています。昨年度は、社会科の授業実践で悩んでいたときには、同じ研究部会の仲間にすぐ連絡を取り、お互いに相談し合うことで、よりよい授業になるようチームで支え合っていました。

教職の魅力インタビュー

インタビュー動画

倉知 里奈 先生
小牧市立小牧中学校 教諭
教職21年目(収録時)
教科:社会

支えてくれる仲間とともに、子ども・保護者に寄り添う

Q 子どもに寄り添う上で大切にしていることは何でしょうか?

A 小学校と中学校両方を経験してきて、共通していることは児童生徒の話をとにかくじっくり聴くということです。「そうなの、そうなの」というように傾聴することを一番大切にしています。

また、子どものことで困っている、悩んでいる保護者に寄り添うことも大切だと考えており、お話にじっくり耳を傾けるようにしています。学校と家庭が違う方向を向いていると子どもが一番困り、振り回されてしまうと思うので、アドバイスをしたり悩みを聞いたりという形を続けています。

Q 教師を目指す学生や若い教師に向けて一言お願いします。

A 教員はブラックだと最近よくマスコミに言われますが、私はあまり思ったことがありません。教材研究をするときは時間を忘れてやりますし、学級通信も時間をかけて作っていました。毎日が変わっていく、同じことが起きないというのが教師の魅力だと思っています。

また、自分ができなかった青春を取り戻しているような気がします。思いっきり運動会で応援できなかった自分が、今度は教師になって子どもたちと一緒に声を上げて応援していることや、もう一度修学旅行を楽しめることなど、子どもたちと一緒に楽しんでいくことができている。こんな幸せな仕事はないと思います。

ときには意見がぶつかりうまくいかなかったり、自分の指導で思い悩むこともあると思いますが、そこには必ず支えてくれる同僚がいるし、信用してくれる子どもがいます。卒業生に会った時に「あの時の先生の言葉が忘れられない」という言葉を聞くと、本当に教師をやっていてよかったなと思います。本当に素敵な職だと思っています。是非今の仕事続けていただきたいなと思います。

教職の魅力共創インタビュー6年間を振り返って

学長補佐・准教授　竹川 慎哉

2020年度より開始したこの教職の魅力共創インタビューですが、6年間で32本の動画を作成することができました。すべての撮影に立ち会った担当者として、振り返りたいと思います。

このインタビュー動画は、教職の魅力の多面性を発信し、新たな魅力を創り出していくことを目指して開始しました。大切にしてきたことの一つは、何を魅力に感じているのかについて、教師自らのことばで語り、それを発信することです。言い換えれば、一般化された教職の魅力ではなく、固有名の教師が発する魅力です。もう一つは、教師の仕事への個性的なこだわり、その多様性を知ってもらうことです。教師の仕事は、表面的に見えていることや学園ドラマで描かれるほど単純なものではありません。そうした複合的な仕事に教師はどのように向き合っているのかを発信したいと思ってきました。

32本のインタビュー動画を観ると、これらが実に多様であることがわかります。多様ではありますが、いずれの語りにも、「子どもや保護者への寄り添いや敬意」、「他者とつながり、社会へと広げる学び」、「同僚教師との協働と学び続ける姿勢」が共通していたように感じています。現在教職にある方、これから教職を目指す方がこれらの語りに触れ教師としての自らを語ることばを持つきっかけになれば幸いです。

ご案内

叢書「教職の魅力共創」

⑨『(社会共創編)新たな学び・学校のかたち(5)』
⑩『(教科・領域編)ことばがひらく世界を共創する』を刊行

愛知教育大学「教職の魅力共創」編集委員会(委員長 野田敦敬)では、多様なステークホルダーが「教職の魅力」を共に高め、創り、共有していけるような場として、2021年度より叢書「教職の魅力共創」を刊行しています。今回は『(社会共創編)新たな学び・学校のかたち(5)』と『(教科・領域編)ことばがひらく世界を共創する』の2冊を2026年3月に刊行いたします。ぜひご覧ください。購入については、愛知教育大学出版会のホームページをご確認ください。アマゾンでも購入できます。

社会共創編 500円(税込)

教科・領域編 1,000円(税込)

国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

編集・発行／
愛知教育大学　未来共創プラン
戦略3「教職の魅力共創プロジェクト」

https://cocreate.aichi-edu.ac.jp